



牧陵新聞

横浜市中区常盤町3丁目24
横浜緑ヶ丘高等学校同窓会
牧陵会 ☎045-664-9020
ホームページ (HP)
bokuryoukai.com
HP → 住所変更・お問い合わせ
HP → 会費・寄付金

100周年記念式典

1923年に横浜三中として創立、時は流れ、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校は2023年に創立100周年を迎えました。

100年間、横浜緑ヶ丘高校は本牧緑ヶ丘の地に根を下ろし、多くの卒業生を送り出してきました。この節目の年にあたり、記念すべき年を祝う式典を、令和7年5月23日、新装になった県下有数の規模を誇る体育館にて開催しました。

会場には在校生全員、県立学校校長先生方、同窓会長、三徳会保護者、牧陵会卒業生の1,100名を超える皆様が新体育館に集いました。

第1部では、国歌斉唱に続き、実行委員長、校長、三徳会理事長の挨拶、ご来賓の県副知事、教育長からのご挨拶をいただき、在校生を代表して生徒会総務部部長があいさつをしました。次いで牧陵会直井会長から100周年記念事業目録を坂元校長へ引き渡しました。

吹奏楽部の伴奏にて校歌を歌い、第1部の中締めとしました。

第2部は学校の歴史紹介、記念講演、現役生徒の発表でした。

学校の歴史紹介では在校生の司会で、高校29期 室井三紀さんの琵琶語りと管弦楽部の弦楽アンサンブルで100年の歴史をスライドとともに演じられました。

開校時の間借りからはじまり、3回の廃校の危機、校庭の米軍進駐など、今では想像がむずかしい100年の歴史の流れを知らせる良い演目でした。

記念講演では、高校35期の吉田智誉樹さん(四季株式会社(劇団四季)代表取締役社長執行役員)の演劇の道へ進むきっかけ、劇団四季

の浅利慶太氏との出会いなど興味深いお話でした。生徒からの質問も演劇へ進んだ吉田氏の高校時代など活発なものでした。

生徒発表は、関東地区予選で代表に選ばれ、大阪万博で演技するダンス部の華麗な演技、吹奏楽部の力強い演奏が披露されました。観客席両側での演技はアリーナの広さを示すものでした。

体育館にある武道場では、100年の歴史のトピックを24枚のパネルに牧陵会校史資料室運営部会でまとめ、展示しました。

出席の皆様には、当日発行された神奈川新聞の特集ページ、100周年記念誌ダイジェスト版、校歌と学校の航空写真がデザインされたクリアホルダー、校章の焼き印のどら焼きを、記念品としてお待ち帰りいただきました。

新装となった体育館で挙行された記念式典は次の100年へのステップとなりました。



創立100周年事業、及び記念募金のご協力ありがとうございました。

横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会委員長 池田加津男(高21期)

100周年記念事業もメインとなる記念式典が終了し、後は生徒会館の改修などを残すこととなりました。

設置後50年以上経過した体育館も格技場等も組み込んだ大規模体育館に建替えられ、記念式典の会場として皆様にご来場いただきました。巡り合わせ良く100周年での建設となり、記念施設とも受け止められます。

100周年を記念する事業の推進のため、学校と後援三徳会、そして牧陵会の三者が共同して取り組むこととして、「横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会」が設置されました。

資金につきましては、後援三徳会の積立金、及び牧陵会を中心とした記念募金によることとし、積立金、及び記念募金併せて4,400万円の貴重なご協力を頂きました。また、音楽祭入場料、記念誌の頒布料などの諸収入もほかに含まれます。

この収入を基に記念式典の開催、記念誌の編纂発行、ぜんりょく音楽祭、全校生の芸術鑑賞会などの記念イベント、在校生への記念品、更には、神奈川新聞、タウンニュースの100周年企画記事掲載への負担金などに支出いたしました。

それら事業費の残額は環境整備に充てることとし、まなびや基金分として頂いた額1,400万円に加えて、環境整備費は2,000万円となり、大型冷風機8台を既に設置し、今後実施される生徒会館改修に当てられます。

現時点では生徒記念行事等の検討も残っており、それらを想定した予備費もあります。それらも含めたうえで残額が出れば環境整備費に充てますので、最終的には更なる環境整備に充てることも考えられます。

次に記念募金につきましては概算ですが、一般分は1,500件で1,400万円、学び舎募金(まなびや基金に納付)では800件、1,400万円を頂きました。併せて2,300件で2,800万円となります。個人のほか、同期会開催時の募金、部活動OB・OG会などグループでの募金もいただきました。用途については前述の通りです。

この100周年では、時期を同じくして体育館整備と関連工事が行われ、体育館建設だけでも16億円の県費が投入されています。記念事業での環境整備はそれに比べれば少ない額ですが、在校生を支援する気持ちの発露としても取り組みました。

改めまして記念事業、及び記念募金へのご協力ありがとうございました。

CONTENTS	page	P6: 緑高情報	P11: 日日是好日
	P2: 牧陵会会長挨拶・学校長挨拶	P7: 校史資料室、記念誌の発行	P12: 母校100周年事業の報告
	P3: 緑高情報	P8: 同好会だより	P13~15: 会費・寄付金納入のお礼
	P4~5: 牧陵会総会の報告・活動予定	P9: 同期会だより	P16: 事務局より
	牧陵・緑のフェスティバル	P10: クラブ・OB会だより	



会長挨拶

持続可能な 同窓会を目指して

会長 直井 ユカリ (高32期)



牧陵会会員の皆様方には日頃から会の運営に多大なるご理解、ご支援を賜り御礼を申し上げます。

さて、2023年度に創立100周年を迎えた母校ですが、さる5月23日に新体育館において「創立100周年記念式典」が盛大に挙行されました。当初は昨秋に開催予定でしたが会場となる新体育館の竣工遅れから延期となっていましたので喜びもひとしおでした。

また、昨年9月23日には、出演者も運営スタッフも観客も全てが緑高生という「ぜんりよく音楽祭」が開催されましたが、これら2つの大きな事業がともに大成功を収めることができたのは正に緑高生パワーが炸裂した証しだと思います。創立100周年にあたっては、2大事業に加え、記念誌の発行、神奈川新聞やタウンニュース(西・中・南区、磯子・金沢区版)への記事掲載など多くの記念事業が開催されました。牧陵会としては、100周年事業委員会(高校、後援三徳会、牧陵会で組織された周年事業の実行組織)とともに各種事業に取り組んできましたが、会員の皆様からは100周年記念募金として多くの寄付金をいただき、学校備品・設備の充実に充てることも記念事業を催行することができました。皆様のご支援に改めて心から御礼を申し上げます。

さて、母校創立100年の次は牧陵会の創立100周年が3年後に迫っています。しかし、今後の牧陵会運営に危機感があることも否めません。

緑高卒業生は自動的に牧陵会会員となりますので、これまでの会員数は約28,000人にのぼります。現在、所在が判明している会員は約15,000人ですが、現在の会費納入率は約15%に留まっています。一方で、郵便料金値上げをはじめ昨今の物価上昇等により、会の運営環境は年々厳しくなっています。

牧陵会は、会員の皆様の会費や寄付金により運営されていますので、持続可能な組織としていくためには収入をしっかりと確保していく必要があります。

牧陵会の目的である「会員同士の交流と親睦」「母校の支援」に係る活動は引き続き積極的に推進してまいりますが、併せて今後は会費納入率向上と事業見直しを重点課題として対応に取り組んでいきたいと考えています。

同じ横浜第三中学校、第三高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校で学び、友情を育み、卒業した仲間の会が牧陵会です。同窓生同士が繋がりを、親睦の輪が広がっていくことは非常に有意義なことです。会員の皆様方におかれましては、牧陵会の持続、発展のためにこれまで以上のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学校長挨拶

創立100周年記念式典と これから

校長 坂元 久美子 (高35期)



おかげさまで着任2年目となりました。牧陵会会員の皆様には、本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

大勢の皆様のご尽力ご協力により、新体育館で緑高100周年を祝うことができました。私自身、この機会に母校に勤務させていただけたことを大変有難く、感慨深く思っております。ここでは、生徒への私のメッセージと生徒の様子をご紹介します。

《私が生徒の皆さんに、この式典を通じて何を思い、考えてほしいか。期待することがあります。緑高100年間の各時代、「今」と懸命に向き合い、生きてこられた方々の思いを受け止めてほしい、ということです。第2部では学校の歴史紹介、記念講演があります。卒業生の室井様、吉田様のお力をお借りして、その思いを皆さんに感じてほしいと思っています。(略)校訓「三徳一誠」は「正しい判断力を持ち、人のために尽くし、おそれない心で、実践しやり遂げる。」こと。校章にある「中」の字は「偏りのない」こと。これらの理念は、現在の緑高・緑高生の皆さんに受け継がれているものです。強いことも強いられることもない、自他ともに尊重されるのびのびとした校風が緑高にはあります。また、緑高は、偏りなく学び、自ら意思決定し挑戦できる場です。それは、100年間の各時代の方々、「今」と懸命に向き合われたことで、つくられてきたものです。この素晴らしい学び舎で皆さんが十分に挑戦できるように、今日は緑高の100年間を感じ取り、学び、受け継いでいってください。》(第1部校長挨拶より)

第2部最後の校歌斉唱では、新旧「緑高生」の高らかな歌声が会場に満ち、特に生徒たちの音量は第1部の歌唱時の倍以上でした。校歌を口ずさみながら教室に戻る者。記念誌や新聞を広げる様子。自習スペースのボードに書かれた記念講演のお話の一節。いずれも生徒たちが式典の意義を理解し、先輩方や関係の方々との真心という伝統を受け継ぐことを実感した証だと思います。全校生徒に素晴らしい機会をいただき、ありがとうございました。

来春まで続く工事等の予定です。

◆正門バリアフリー工事(8月中旬～):正門付近の姿が大きく変わります。

◆100周年記念事業「まなびや基金」による生徒会館(部室棟)の修繕整備(12月～):皆様方のご支援に深く感謝申し上げます。

◆旧体育館跡地(10月前後):新たに「憩いの庭」を造ることになりました。

施設等の外観は変化しますが、引き続き、現在・未来の生徒に変わらぬご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



■着任挨拶

副校長 上原 志郎



牧陵会会員の皆様、4月に副校長として着任しました上原志郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。5月23日に開催しました創立100周年記念式典には、多くの会員の皆様にご出席いただき、また多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本校は、文部科学省及び神奈川県教育委員会の指定を受け、次世代を担うリーダーの育成に力を注いでおります。生徒一人ひとりが自ら考え行動し、他者を尊重しながら自己実現を目指せるよう、教職員とともに取り組んでいきたいと思っています。

今後、様々な場面で牧陵会の皆様のお力添えをいただくことがあるかと存じます。引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

■退任の挨拶

元副校長 村井 仁史



令和5年から2年間、副校長として横浜緑ヶ丘高校でお世話になりました。在任中は牧陵会の皆様には何かとお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

2年間の短い期間ではありましたが、横浜緑ヶ丘高校創立100周年という特別な時期に勤務することができ一生忘れられない良い経験と思い出となりました。

牧陵会の皆様には「緑高セミナー」、「緑のフェスティバル」や「緑高祭での牧陵会ブース」など様々な行事でお会いした際の笑顔と、母校を思うあたたかなまなざしは、今も心に残っております。皆様との出会いや交流は、私の財産となっております。

次の100年に向け横浜緑ヶ丘高等学校と牧陵会の益々の発展とご活躍をお祈りしております。

● 2025 緑高祭

例年よりも少し早い6月14、15日に緑高祭が催されました。今年のスローガンは「緑高生とは99%の青春と1%の勉強である」。梅雨の最中で天候も心配されたものの、過去最多のお客様を迎えた昨年にも負けない賑わいとなりました。今年から新装なった体育館では、吹奏楽、管弦楽、バンドの演奏。野外では飲食ブースに長蛇の列ができ、バンドやダンス、仮装大会などで賑々しく盛り上がりを見せていました。校舎内では、各サークルの展示やクラス主催のカフェ、お化け屋敷などの出し物にも終始人が絶えることがありませんでした。牧陵会では図書室のスペースをお借りして、100周年記念式典でも紹介した100年史の展示と合わせて、緑高の敷地から掘り出された「平台貝塚出土品」に直接触れていただく機会も設けました。

旧体育館と旧柔剣道場は解体工事が始まっており、正門の坂道の斜度を緩やかにする工事も予定され門柱もなくなるそうです。秋には新たな佇まいを見せることになる母校に一度立ち寄りてみてはいかがでしょうか。



▲平台貝塚出土品

■ 横浜緑ヶ丘高校教職員異動状況

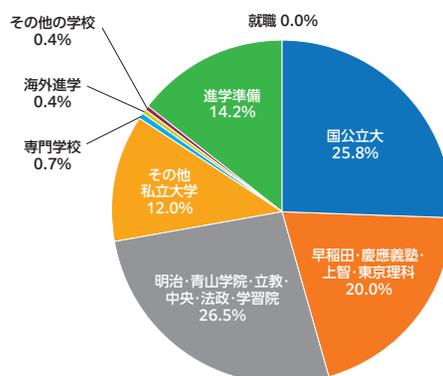
転出 (令和7年3月31日)			転入 (令和7年4月1日)		
教科等	氏名	新任校	教科等	氏名	前任校
副校長	村井 仁史	再任用： 横浜立野副校長	副校長	上原 志郎	川崎
	田口 由紀	川和： 教頭(新任)	教諭	窪田 成晃	横須賀市立 横須賀総合
	田原 昇	菅	教諭	福井 大輝	横浜翠嵐・定
	川崎 公貴	大和東	教諭	三上 琢	白山
	西城寿美子	退職	教諭	牧内 悠真	商工
			教諭	武藤 健太	綾瀬

■ 進路状況一覧

卒業生の現役時における進路状況 (過去3年間)

類別	2024年度卒業生(77期)	2023年度卒業生(76期)	2022年度卒業生(75期)	
4年制大学	国公立	71	62	39
	私立	161	185	192
	計	232	247	231
短期大学	0	0	0	
大学校	1	0	0	
海外の大学等	1	1	1	
専門・各種学校等	2	3	4	
就職	0	0	0	
進学準備等	39	20	38	
当該年度卒業生計	275	271	274	
進学率(%)	85.8%	92.6%	86.1%	

令和6(2024)年度卒業生進路状況一覧



2025年度 牧陵会総会の報告

2025(令和7)年6月7日(土)波止場会館にて牧陵会総会を開催しました。42名の出席で、下記議題を審議し、承認されました。

【議事】

◆第1号議案 2024(令和6)年度牧陵会活動報告について

コロナ禍も過ぎ去り、マスクをしない日常が戻り、牧陵会の活動も対面での開催がさらに増えました。2024(令和6)年度はかねてより準備を進めていた100周年記念音楽祭「牧陵緑のフェスティバル〜ぜんりよく音楽祭〜」を催行しました。

こうした中、同期会やクラス会などの集まりも再開され、新事務所の活用や広報活動、各種交流事業も推進されました。牧陵会青年部の主導により、若い会員との交流機会づくり、SNS活用の検討なども進められています。一方、会費収入が年々減少する中、印刷費・郵送費の高騰により事業運営は難しくなっています。今後、長年会員に親しまれてきた「牧陵新聞」の年2回発行や各種事業について、見直しを検討する時期にきています。

◆第2号議案 緑高創立100周年事業の報告について

2023(令和5)年の100周年を祝うため、横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会を横浜緑ヶ丘高校、後援三徳会、牧陵会で設置して様々な記念事業を実施しました。

- ・記念式典 開催日：令和7年5月23日(金)
- ・記念誌の編集発行(令和7年5月1日発行)
- ・ぜんりよく音楽祭 開催日：令和6年9月23日
- ・在校生記念事業 芸術鑑賞会、記念品の配布
- ・新聞企画ページによる広報：神奈川新聞、タウンニュース
- ・教育環境整備

◆第3号議案 2024(令和6)年度決算報告について

- 1) 2024(令和6)年度決算報告
- 2) 2024(令和6)年度会計監査報告

2024(令和6)年度決算・2025(令和7)年度予算

■ 収入の部 (単位：円)				
項目	2024年度予算	2024年度決算	増減	2025年度予算
1. 会費	5,000,000	4,184,000	△ 816,000	4,700,000
2. 入会金	840,000	825,000	△ 15,000	840,000
3. 新年会参加費	490,000	438,000	△ 52,000	455,000
4. 寄付金	3,000,000	2,880,346	△ 119,654	3,500,000
5. 雑収入	238,003	46,800	△ 191,203	50,000
100周年委員会より入金		2,607,895	2,607,895	
受取利息		3,297	3,297	5,876
単年度収入計	9,568,003	10,985,338	1,417,335	9,550,876
(特別会計)				
6. 前年度繰越金	1,431,997	22,000	△ 1,409,997	△ 1,323,876
7. 積立金取り崩し額	2,000,000	2,000,000	0	0
収入合計	13,000,000	13,007,338	7,338	8,227,000
■ 支出の部 (単位：円)				
項目	2024年度予算	2024年度決算	増減	2025年度予算
1. 総務運営費	4,528,000	3,670,666	△ 857,334	2,834,000
2. 会員活動費	390,000	417,050	27,050	300,000
会員(青年)部会活動費	0	0	0	430,000
3. 事業活動費	2,000,000	3,112,692	1,112,692	1,030,000
4. 広報費	5,380,000	6,950,187	1,570,187	3,333,000
5. 牧陵校史資料室運営費	130,000	20,619	△ 109,381	140,000
母校活動支援金	200,000	160,000	△ 40,000	160,000
6. 積立金	100,000	0	△ 100,000	0
7. 予備費	250,000	0	△ 250,000	0
単年度支出計	12,978,000	14,331,214	1,353,214	8,227,000
8. 次年度繰越金	22,000	△ 1,323,876	△ 1,345,876	0
支出合計	13,000,000	13,007,338	7,338	8,227,000

基金等特別会計の状況(2025(令和6)年3月31日現在) (単位：円)	
1. 牧陵会基金	10,792,508
2. 記念事業積立金	2,658,613
3. 活動維持積立金	2,067,519
4. 事務所差入保証金(新牧陵会事務所)	427,680
基金合計	15,946,320



◆第4号議案 2025(令和7)年度活動計画について

母校・横浜緑ヶ丘高等学校(緑高)は、2023年に創立100周年を迎えました。牧陵会についても100年近い歴史を重ね、数多くの会員が日本の各界各層に留まらず、世界的な活躍をしています。一方で近年、会費納入者が減少しており、伝統ある高校同窓会として持続可能な組織としていくために会費収入の確保が最大の課題となっています。

2025(令和7)年度は、未来に向けて持続可能な組織体制を維持していくため、会費収入増や若手会員の関与を高めていくことを最重点として活動します。

(1) 会員相互の交流、親睦の場を提供する事業

- 2025(令和7)年度牧陵会総会・懇親会の開催
- 牧陵・緑のフェスティバル/同期会幹事委員会の開催
11月15日(土) 会場：緑高
- 第20回青春かながわ校歌祭への参加
10月18日(土) 会場：やまと芸術文化ホール
- 牧陵会新年のつどい開催
2026年1月 会場：未定
- 同期会開催支援

(2) 母校の発展に寄与する活動

- 「学びの奨励基金」運営への協力
- 緑高祭開催支援(校史資料室での展示)
6月14日(土)～15日(日) 会場：緑高
- 「緑高セミナー」開催支援/期日：未定(年2回) 会場：緑高
- 母校の運営への参画
- その他、母校及び在校生への支援

(3) 広報活動ほか、本会の活動基盤強化を図るための事業

- SNSを活用した情報発信及び交流の促進 新規
- 牧陵新聞の発行(第49号)：2025年8月発行予定
- ホームページの改善及び活用
- 宛先不明会員の解消、会員情報の整備
- 会費納入率向上及び収支見直し

(4) 学校創設100周年記念事業【主催：100周年事業委員会】

- 100周年記念誌の発行
5月発行 内容：冊子及びDVD
- 記念募金周知のための活動支援
- 創立100周年記念式典の催行
5月23日(金) 会場：緑高新体育館
- メディアへの創立100周年特集記事掲載によるPR
 - 神奈川新聞(5月23日発行)
16,000部(抜き刷り1,500部)
 - タウンニュース 西・中・南区版及び磯子・金沢区版
(6月12日発行)
- 生徒会館補修への支援

◆第5号議案 2025(令和7)年度予算について

【2025年度予算編成上の留意点】

★緑高創立100周年後の牧陵会活動の充実と活性化・財政健全化を図る予算を編成

◆収入の部

- ①会費は納入者数が減少傾向にあり、昨年会費の収入確保(目標2,350名)に取り組む。
- ②入会金：2026年3月卒業生数見込みによる。
- ③寄付金は前年実績並びに会費納入を勘案して、900名×3,000円+1000名×800円=3,500,000円を計上する。

④ 昨年は100周年記念事業活動のために取り崩しを行ったが、事業を見直して、減額予算として、基金の取り崩しは行わない。

◆支出の部(主な増減項目)

- ① 事務局の勤務体制を変更減額予算化
- ② メールを活用し、通信郵便料金を減額
- ③ 牧陵新聞発行、配送数を検討し減額予算とした。
- ④ 「牧陵」の発行支援を停止する。
- ⑤ 組織体制を維持し、若手会員の関与を、高めるため会員(青年)部会予算を計上した。

◆第6号議案 牧陵会役員について

今回の役員の内任については、2024年度に改選した役員の内任途中の交代、補充であることを鑑み、役員任期の残余期間である1年間といたします。(※総会議案対象は太字の3名)

役職名	氏名	卒業期	備考
会長	直井 ユカリ	高32期	
副会長(総務部会担当)	美濃 一代	高22期	
副会長(事業部会担当)	中山 敏章	高22期	
副会長 (会員部会担当・校史資料室運営部会担当)	小林 道昭	高28期	
副会長(広報部会担当)	小松崎 敏彰	高21期	新任
総務部会長	丸茂 健一	高44期	
総務部会副会長	吉野 丈仁	高31期	新任
会員部会長	田原 正崇	高44期	新任
会員部会副会長	砂川 裕美	高46期	新任
会員部会副会長(青年部会長)	佐藤 颯	高73期	新任
事業部会長	中村 ひとり	高26期	
事業部副会長	山崎 愛	高46期	新任
広報部会長	西尾 匡弘	高33期	
広報部会副会長	宮本 太郎	高23期	
校史資料室運営部会長	片倉 正一	高23期	
校史資料室運営部会副会長	小島 淳子	高32期	
事務局長	木村 徹	高21期	
会計監査	林田 政義	高15期	
会計監査	小濱 千丈	高31期	新任
相談役	鈴木 正次	高11期	
相談役	峯嶋 利之	高12期	
相談役	山下 東洋彦	高13期	
相談役	池田 加津男	高21期	

※任期は2024(令和6)年6月1日(総会)から2年間

◆総会での意見・提案

中学期1名、高7期から10期代9名、20期代13名、30期代5名、40期代7名、50期～60期2名、70期代5名の42人が出席し活発に審議されました。

下記のかたがたから質問提案がありました。貴重な提案は今後役員会で検討し、新しい対応を進めて行く課題としていきます。

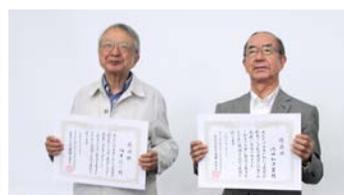
- 68期** ① SNSの活用を進めたらどうか。Instagramとthreadの連携、卒業生個人、企業の情報、現役生も参加してもらえる、OB・OGとの繋がりを作る。
- ② 予算の収入減の現状で、会費増加させるアイデアを検討するべき。
- 11期** ① 会費納入500万円のなかで通信費が多すぎないか。精査が必要。
- ② 寄付について遺贈なども検討できないか。
- ③ 自動振込などの仕組みも検討必要。
- 15期** ① 会員目線での対応が必要。
- ② 同期会幹事委員会で幹事がいない期が複数あり、

住所不明会員の対応などPR方法など新しいアイデアが必要。

- 13期** ① 会費納入者数の減少について分析、その結果に対する対策が検討されているか。
- ② ホームページも改善されてきて見やすくなった。これまでの記事の個人情報の管理について見直す必要性がある。
- 21期** ① 昨年の予算は100周年事業推進のため基金の取り崩しがあったが今年度の予算も、縮小予算ではなく、必要な事業が進められる取り崩しをすすめる。
- 11期** ① 効果が見える予算の使い方が必要。
- ② 会費納入減の中で運用して基金などを増やすことなど検討できないか?



総会



表彰 左：向井前副会長、右：池田前会長



懇親会



懇親会 60期～77期の若手も参加

● 2025(令和7)年度 牧陵会活動予定

2025年(R7)	10月18日(土)	第20回青春ながわ校歌祭 (運営幹事校：県立川崎高等学校) 会場：やまと芸術文化ホール
	11月15日(土)	牧陵・緑のフェスティバル 会場：緑ヶ丘高校
2026年(R8)	1月(予定)	令和8年 牧陵会新年のつどい 会場：未定

● 牧陵・緑のフェスティバル

第25回となる牧陵・緑のフェスティバルを2025年11月15日(土)に開催いたします。昨年は100周年事業と重なったため、ぜんりょく音楽祭を緑のフェスティバルとして、母校ではホームカミングデーを実施し校内ツアーは好評をいただきました。

この緑のフェスティバルは年に1度卒業生の母校帰郷の日として、牧陵会会員同士が卒業期を超えて交流できる「機会と場所」の提供を学校の協力を得て提供するとともに、牧陵会の活動の理解を深めていただき、会員同士のネットワークも年々構築されることを基本理念としています。同好会の発表や展示会やワークショップの他、現役生とOBOGとの交流戦などが企画されており皆さんに楽しんでいただける内容になっています。コロナ禍で活動制限を余儀なくされた後2023年に再開され3年目となる今年は、完成した新体育館も見学できる絶好のチャンスです。

フェスティバルの後では懇親会も企画されており是非この機会に母校を訪れてみてはいかがでしょうか。



緑高情報



SSH スーパーサイエンスハイスクール 報告 (緑ヶ丘高校ホームページより)

◆ ニュージーランド海外研修 (8月9日～24日)

8月9日～8月24日の2週間、本校初となる海外研修を実施しました。参加生徒は20名で、現地のMount. Roskill Grammar Schoolで語学研修をしました。日本とは異なる文化の中で戸惑うことも沢山ありましたが、それぞれ異文化を受け入れ、大きく成長できた日々となりました。日本とニュージーランドのそれぞれの良さを知り、改めて自国文化を再認識できたことでしょうか。英語漬けの日々を経て、これからの英語学習に更に熱が入りそうです。



◆ 第68回日本学生科学賞神奈川県作品展 (10月11日～15日)

上記のイベントでポスター発表をしました。3年生の「緑の探究Ⅲ」で研究発表された内容をブラッシュアップしたポスター「特定条件下における反パスカルの三角形は何段までであるのか?」と、夏に行った五色沼スタディツアーの内容をまとめたポスター「五色沼の色の秘密を探究する2024」の2つです。自ら課題を見つけ、手法を考え研究し、まとめるということは、大変なことだったと思います。このポスターを作製したことをきっかけに色々なことにチャレンジできると良いと思います。

◆ 「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本(10月23日～24日)

「ふくしま学宿」に参加した3名が参加しました。福島での学びをベースに、「創造的復興」というテーマで英語プレゼンを行い、日本全国と国外43カ国から集った高校生たちと英語でディスカッションも行いました。難しいテーマに加えて、英語でのコミュニケーションに苦戦しつつも、災害や復興について議論を尽くしました。



世界の高校生から多くの刺激を受けた2日間でした。

◆ 3年生「緑の探究Ⅲ」まとめ

「緑の探究Ⅲ」では、最後の課題を設定して調査・実験し、成果をポスターで発表しました。履修後のアンケート調査によると、「緑の探究に興味深く意欲的に取り組んでいる」に肯定的な回答をした生徒は94.3%でした(回答数243)。

また、「緑の探究で最も伸ばしたい力」では、「課題発見・設定能力」と回答する生徒が学年を経るごとに増加しました(1年生22.1%→3年生39.4%)。その意識の表れなのか、検証に適した課題を設定できているグループが3年間で徐々に増えたことが印象的でした。ここでの成長は、高校卒業後も役に立つと確信します。



2024年度 主な活動実績・活動報告

運動部、文化部の活動も活発に行われています。

牧陵会では関東大会進出のクラブへの支援をまた夏の野球大会、サッカーなどスポーツ応援隊でサポート行っています。



アーチェリー部

●第13回関東高等学校アーチェリー選抜大会出場
令和6年11月9日～11月10日 茨城県ひたちなか市

吹奏楽部

●第20回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜 連盟理事長賞
令和6年11月9日～11月10日 横浜みなとみらいホール

●第30回東関東吹奏楽コンクール銅賞
令和6年9月7日 宇都宮市文化会館

ダンス部

●「日本高校ダンス部選手権 新人戦東日本大会」スモールクラス・ビッグクラス出場

●「横浜エクセレンスホームゲーム」オープニングショー参加

夢舞〈MOVE〉2025 EXPO DANCE CHAMPION SHIPにエントリーし、関東地区代表の1つとなり、7月30日大阪万博 EXPOホールにて開催される本選に出場



バドミントン部

●6月22日茅ヶ崎総合体育館で行われた高校総体・団体戦 ベスト8以上
藤沢翔陵高校に敗れましたが、県5～8位という成績でした。

母校創立100記念特集特別号発行 100周年事業委員会

100周年記念事業にあたり、地域一般に配布される新聞社による記念特集号を記念式典に合わせて発行いたしました。

特集紙面は横浜三中からはじまる100年の歴史、学校の特色などフォーカスして、編集されました。

また、費用の負担は紙面の一部を協賛広告として、牧陵会会員の皆様からご協力いただき、まことにありがとうございました。

紙面については新聞社ホームページからも閲覧できます。

神奈川新聞

タウンニュース



<https://www.kanaloco.jp/news/life/article-1175300.html>



<https://www.townnews.co.jp/0113/2025/06/12/788896.html#:~:text=>





校史資料室

◎ 記念誌編集余話

片倉正一(高23期)

編集委員は全部で9名(現教員1、旧教員3、牧陵会2、三徳会4:私が旧教員かつ牧陵会員とダブルしている)で編集を担当しましたが、ここでは代表して私が余話、いわば裏話を紹介したいと思います。

①手入力からスタート

作業はまず六十年史と七十年史の手入力から始まりました。OCRソフトを使えば簡単に済むのですが、昔、苦勞されて編集された方々に敬意を表してじっくりと原稿に向き合っ手入力でいこう、それに時間は十分あるし…などと思って手入力で開始しました。ちょうどコロナ禍の最中で外出が制限されていたこともあってちょうどよかったのですが、実際にはやはり数ページに1つくらい割合で誤入力があり、校正の時に大変でした。

②30年分の校史

ついで残り30年分の校史の記述になるわけですが、これが想像以上に大変でした。今、学校では日常の記録は学校のパソコンに保存するのですが、基本、学校の仕事は毎年ルーティンなので数年分残せば十分であるため、ある程度の年数が経つとみな資料は消去してしまうのです。なのでちょっと前の記録など残っていません。そこで当時の同僚などに経緯を教えてもらいながら、いろいろなエピソードを発掘していきました。

この30年間は学校自身は特に記すような大きな問題や事件がなかった代わりに、入試方法が次々に変わったり、学区が細分化、あげくの果てに消滅したりという外側での変化はとて大きく、このへんについては詳しく書きました。

③部活動や牧陵会・三徳会を別に扱ったこと

原著ではこれらは時系列に沿って本文の中に組み込まれて記されてましたが、それだと例えば部活動個々の歴史を知ろうとするとあちこちに飛んでいるわけが大変です。そこで部活動は第二部として個々の部活動ごとに通して記述、また牧陵会と三徳会は第三部としてこれもそれぞれ別に通してまとめました。

ただあちこちに散らばっているのをまとめればすむわけではなく、それらの内容のつながりをうまく表すのに苦勞しました。また特に部活動の対外試合結果に一部疑問点があったり、ネットで公開されている記録との齟齬もあつたりしたため、直接該当の部員の方に連絡をとって確認したりもしてなかなか手間のかかる作業となりました。

④職員一覧

最後に巻末の資料の作成にかかりました。なぜか六十年史と七十年史、八十年史には職員一覧がありません。また九十年史には載っているものの過去10年分だけでした。しかしこれは記念誌にとっては極めて重要な記録で、在籍した生徒の名前を全部記すのは現実的には無理(これは同窓会名簿にお任せ)ですが、職員についてはその在籍期間の記録は必須の内容です。ただ幸い田中校長が在籍時に(おそらく百周年

史を意識して)それまでの一覧を作っておき、田中校長退職後も牧陵会の方で毎年記録をつけていてくれたので、それにここ数年のものを付け足して簡単にできると思っていました。

ところが全部入力した後で、点検する中でいくつか落ちがあることに気づきました。それらは最近のことなのでなんとか調べて追加できたのですが、その過程で創立当初(大正～昭和初期)の教員がやけに少ないことが気になっていました。こんな人数のわけがないなあと訝しく思っていたのです。しかしそんな昔の資料などなく、調べようがなかったのです。ところが委員で旧職員の川手さんが国会図書館から、大正から昭和初期にかけての神奈川県教員録を探してくださって、なんと結局25人を追加することができました。

⑤生徒会長一覧

実は生徒会長の一覧を掲載しようと思い、委員で現教員の池田先生に依頼して調べていただいたのですが、かなり多くの不明の年があり、これから調べるのは容易ではなく、これはカットしました。やはりこういう重要な資料は意識して保管を心がけたいものです。

⑥その他

また点検・校正していく中で、原著の文章を入力していた当時は気づかなかった多くの間違いがあることにも気づきました。一つだけあげると、六十年史の60ページに「ラウラトーネ先生はスエーデン国の有名なアムンゼン…南極に到達」と出てきますが、アムンゼンはノルウェーの人ですし、また南極でなく南極点と言わなければなりません。

さらに大正12年から昭和12年までの「年度別志願者・合格者数」の表は、六十年史では多くの?があつたのですが、川手さんが国会図書館の資料を調べてくださり、かなり復元できました。

他にもいろいろあるのですが、紙幅の関係でこのくらいにしておきます。

◎ 100周年記念誌の刊行について

横浜緑ヶ丘高等学校100周年記念実行委員会

緑高100周年の記念としてこれまでの記念誌を集大成する形で記念誌を発行いたしました。

特に三中、三高、緑高の学校史の集大成である「60年史」の復刻を図り、それを土台として100周年の記念誌として編集されました。

新体育館の竣工にあわせ記念式典は令和7年5月23日に挙行され、記念誌は電子書籍とあわせて5月1日に発行しました。

1. 装丁 A5判(天地210mm×左右148mm)上下2分冊
2. 発行部数 1,000部
3. 頒布単価 記念誌(上下2分冊): 3,000円(税込、送料込み)
DVD版: 1,500円(税込、送料込み)





同好会だより

■ 第20回 緑会絵画展開催について 降幡 俊夫 (高7期)

第20回緑会絵画展はさる4月23日～29日に恒例の杉田駅前ギャラリーで開催された。卒業生11名、教職関係者3名、在校生8名のオール緑高関係22名による絵画展である。来場者は校長はじめ牧陵会関係者など総勢300名を超す盛況であった。開催に当たっては、学校、牧陵会など関係者の協力をいただいた。特に20回を記念して牧陵会からは、大変立派な花飾りが届き一同心底より喜んだ。

この会は可能な限り今後も毎年継続する予定であり、そのため運営幹事も若手の起用を考慮したいと考えております。この際出品を考えておられる方がおいででしたら是非牧陵会事務局までお知らせ下さい。



■ 牧陵ゴルフ同好会 第15回コンペ (3月26日) のご報告 山下 東洋彦 (高13期)

3月とは思えない気温25℃超えの中、南市原GCで開催。突風とエアレーションで穴だらけのグリーンに悩まされ、さらにグリーン前に池が立ちはだかるパー5の名物ホール9番・18番に苦戦を強いられました。優勝は野球部で鍛えた豪打の持ち主岩上さん(46期)が最終18番ホールの池ポチャで9打を叩いたにも拘らず84のベストグロスで圧勝。準優勝はこれまた18番ホールで池に3発打ち込み13打を費やしたものの、ダブルペリア戦ならではの特性を熟知した秘かな作戦(?)が功を奏した山下さん(13期)が、第3位は4つのパー3ホールを何とバーディ1個、パー2個、ボギー1個で回った中島さん(12期)が見事に獲得しました。前半の大叩きを諦めずにプレーした者に贈られる大波賞は、アウトスタートの長谷山さん(38期)が7打、インスタートの田中さん(20期)と山崎さん(46期)が8打改善で獲得。YDK(やれば出来る子)を証明しました。



■ 牧陵合唱団へのお誘い 松原 裕介 (高46期)

牧陵合唱団は緑高卒業生を中心に組織された混声合唱団です。現在は15名で構成し、月2回(日曜日13:00～15:30)、磯子区の横浜市社会教育コーナーで練習を行っています。練習曲は愛唱歌を中心に選んでいますので、合唱の経験がない方でも安心してスタート出来るものと思います。合唱指導で実績を積まれた相澤宏一先生(第18期)と合唱団ピアニストの安藤江浪先生(第31期)のご指導による2時間は、卒業生と共に歌う喜びを感じています。卒業生の交流の場としてもぜひ幅広い年代で活動していきたいと考えていますので、一人でも多くの方に加わっていただきたいと思っています。よろしくお誘いいたします。

【問合せ先】 牧陵合唱団 松原裕介 (高46期)
bokuryouchorus@gmail.com

■ 盆栽クラブ

中村 ひとり (高26期)

高21期岩井功会長が「盆栽クラブやるぞ」と言って早3年たちました。創立時8名だったメンバーは今や19名を数えます。20代から80代まで高校の部活動で繋がったわけでもなく盆栽という趣味に惹かれて集まった仲間たち。定例会は年に4回のほかに特別なテーマ(大宮盆栽祭りツアーなど)での分会も開きます。出来上がった作品を手にとり顔で見せ合い、自分たちのペースで盆栽作りに励んでいます。盆栽というと必ず難しいのではとなかなか踏み出せない方がいらっしゃいますが、一度盆クラを覗いてみてください。意外にハードルは低いですよ。今年の緑のフェスティバルで展示とワークショップをやる予定です。是非足を運んでみてください。



■ 横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団 団員募集中

佐藤 颯 (高73期)

2023年12月に「第43回定期演奏会」の復活公演を開催したことをきっかけに、高72～75期の卒業生のなかでOBOGバンドとして継続的な活動をしたいという機運が高まり、昨年度6月に「横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団」として結成しました。現在は高33期から高77期と幅広い世代で活動しています!

今年度は、12月の定期演奏会や、プロバスケットボールの試合におけるハーフタイムショー、地域のイベントと牧陵会イベントに出演予定です! すべて緑高卒業生によって運営されている、「オール緑高」の吹奏楽団です! まだまだ団員募集中ですので、ご興味をお持ちの方は、各種SNSやお近くの団員へお気軽にご連絡ください!



■ 合同演奏会

佐藤 颯 (高73期)

この度、横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団は9月27日に若手3バンドによる合同演奏会「Harmony of Generation」に出演いたします。約90名による大編成で迫力あるサウンドをお楽しみいただけます。ぜひご来場くださいますよう、よろしくお誘いいたします。なお、チケットは団員またはフライヤーに記載のQRコードよりご購入下さい。



■ 第34回 牧陵ボウリング同好会報告 林田 政義 (高15期)

令和7年6月27日(金)上大岡アカファーボウリングにて開催しました。折からの猛暑の中、室内とはいえ、更に故障者続出で7名参加で行ないました。

15期は浅見・梅田・永石・秋田、18期は林、22期は中山、48期は初参加の上原の各氏です。

優勝・BGは林田、準優勝は上原氏・何十年ぶりの50才が大検討、3位中山氏、4位永石氏はBB脱出・事前の夫婦練習の成果、5位浅見氏・急遽の出演に感謝、8位梅田氏、7位は、まさかの林氏・ゴルフスコア? 100きりは珍記録!

試合後の懇親会は、新人さん!(若手・上原さん) 歓迎会で、人柄よろしく大変盛り上がり、次回からの若手参加に一層の期待をして閉会致しました。

同期会だより

■ 高校19期 喜寿の同期会の報告 村上 政司 (高19期)

高校19期同期会が2025年4月19日(土)横浜崎陽軒本店で開かれました。255名に往復はがきで案内を送り、173名から連絡がありました。

内訳は参加者は48名、近況報告者は78名。前は7年前の古希の年に53名が参加されました。今回は喜寿のお祝いを兼ねて開催しました。当日は牧陵会直井ユカリ会長の挨拶と小沢敦先生の乾杯で始まりました。6テーブルの円卓で、「あ、だれでした?」とお互いに自己紹介の場でした。

司会者の町田さんが各テーブルを回り楽しい懇談の2時間を過ごしました。最後に元合唱部のリードで校歌を斉唱して、写真撮影で散会しました。帰りにお土産として特製シューマイをお渡ししました。

次回は傘寿……?



■ 第4回 横浜緑ヶ丘高校30期同期会開催報告 小林 正佳 (高30期)

2024年(令和6年)11月23日(土)に高30期の同窓会が8年振りに、横浜駅直結の崎陽軒本店4Fのダイナスティーにて開かれました。当日は天候も穏やかで、懐かしい顔が118名集まるという大盛会となりました。

本来は夏季オリンピック毎に開催の計画だったのですが、コロナの影響で2020年開催が丸々1回飛んでしまい、この8年越しの開催の運びとなってしまいました。そのため、あまり集まらないのではとの懸念もあったのですが、多くの方にお越しいただき、楽しい時間を過ごしていただけたと思っております。

なお、以下に簡単な収支決算表を掲載いたします。開催にあたり牧陵会より還暦記念メモリアル支援金(5万円、2020年より繰越し)を頂戴いたしましたこと御礼申し上げます。

また、当日会場にて「母校100周年記念募金」を行い、11月26日牧陵会事務局を通じて事業委員会に寄付(総額¥37,000)いたしましたことをここにお知らせいたします。

横浜緑ヶ丘高校30期 第4回(2024年)同期会収支報告書			
開催日時	2024年11月23日(土) 18時~		
会場	崎陽軒横浜本店		
参加人数	118名		
参加費	5,000円/人		
収入(円)	支出(円)	備考	
会費	会費支払	1,161,700	
牧陵会支援金	ピュアギフト	1,121,000	緑高より500円/人を補助 59,000円
	大塚文芸クラブ	27,500	
繰越金	プロジェクター	13,200	
	給付費	41,914	
	名札	4,880	
	牧陵会謝礼	2,550	菓子代
	講演費	18,000	
	開催準備費	16,433	幹事旅費(公費) 牧経内訳参照
		会費還	7,882
		都合代	7,371
		コピー代	1,180
合計	1,324,475	1,203,614	
	時間経費金	120,861	

■ 高54・55期 学校再訪 三田 有馬 (高55期)

長い人生の中で、たった3年間しか過ごさなかった高校時代が、なぜこんなにも心に残っているのか、不思議に思う。

2025年5月11日、共に過ごした陸上部の54期と55期で食事会をする前に、有志5名で母校を訪問した。牧陵会の前会長・池田氏が案内してくださった。

新体育館は巨大で立派だった。南館すら知らない私たちは、母校のはずなのに、新体育館の前で完全に方向感覚を失っていた。

一方で、生徒会館(部室棟)は私たちにとって変わらず懐かしく、相変わらずの運動部らしい室内の様相に安心した。

また、食堂も私たちには変わっていないように感じた。しかし池田氏にとっては、現在の食堂は「移転された食堂」だという。私たちは、食堂が移転していたことすら知らず、衝撃を受けた。

池田氏は、解体予定の体育館も「私にとっては新体育館」と笑いながら話していた。その言葉に、はっとさせられた。

「新」と「旧」は、相対的であり、きわめて個人的なものなのだ改めて実感した。

いつの日か、新体育館を「新」とは思っていない卒業生に向かって、「私にとっては新体育館」と、池田氏のようにニコニコ笑いながら話してみたいと思った。



■ 高校72期 卒業後5年同期会開催 小俣 俊平 (高72期)

2025年2月22日、緑高72期は卒業5年後のメモリアル同窓会を開催いたしました。

担任の先生方も含め、総勢165名の方にご来場いただき、とても楽しい会となりました。前回成人式の際に開かれた同窓会では、コロナ禍ということもあり、感染対策を講じ、ソフトドリンクのみでの開催となりましたが、今回はアルコールの提供もあり、ワイワイガヤガヤとより一層の盛り上がりを見せました。

今回は5年後の開催です。20代半ば、何かと変化の多い5年になると思いますが、皆さんまた元気な姿でお会いしましょう。今から楽しみにしております。



クラブ・OB会だより

■ 緑ヶ丘サッカークラブ (シニア部門) 高木 和彦 (高22期)

緑ヶ丘サッカークラブ (シニア部門) 代表 高木です。
 緑ヶ丘SCは、緑ヶ丘高校OBとその仲間達が集うクラブチームです。39歳以上のシニアチームで、緑ヶ丘40、緑ヶ丘50、緑ヶ丘60の3チームがあり、各々のカテゴリーで活動しています。

横浜市のリーグ戦・神奈川県でのリーグ戦・トーナメント戦、その他各種大会及び練習試合を含み、年間合計50試合行っています。

昨年度及び今年度は、成績がふるわず苦戦しています。よって、新しい仲間を集い勝利の祝杯をと思っています。



■ ハンドボール部発足の思い出 赤塚 俊 (高27期)

ハンドボール部は高27期に同好会として発足し、翌年部に昇格した。顧問は内藤昌孝先生、初代部長は男子部沼田良平氏、女子部池田玲子氏、ともに浜中出身である。当初は練習場所の確保に苦労し野球部の外野の奥に割込ようにしてコートを作った。お隣の立野高校の諸先輩に伝統の緑立戦や練習試合を通して交流指導いただいた。

発足時は県大会予選になかなか勝ちあがれず悔しい思いもしたが、今や県の強豪校の一角に加わり現役生たちが大活躍してくれている。技術面、精神面で手厚くご指導いただいた内藤先生は残念なことに昨年夏にご逝去されたが現在の部の発展を雲の上から微笑みながら暖かく見守ってくださっていると思う。

■ 牧陵野球クラブOB・OG会 岡 邦宏 (高15期)

平素より緑高野球部並びにOB・OG会にご支援をいただきありがとうございます。

さて野球部ですが3年ぶりに予選突破し、春の県大会に出場しました。1回戦橘高校に後半突き放され敗退となりましたが、少ない部員数ながら夏の本大会に繋げてもらいたいと期待しています。(7月5日母校にて激励会)

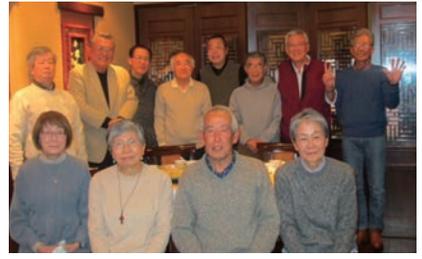
又、OB・OG会としては通常活動の他、学校側から老朽化したピッチングマシン購入支援の要望があり、昨年からの資金協力のキャンペーンをはり50万円の支援を行いました。

部員数も少なく練習の効率化にはマシンは必須です。本大会まで残り少ない日数となりましたが、試合当日は選手にとって全てを出せるよう天候も含め期待しています。そしていつも応援にきていただいている牧陵会の皆さんと校歌を歌いたいと思っています。



■ テニス部 (軟式) OB会を開催しました。 鳥海 憲彦 (高22期)

2025年1月12日、中華街「心瀧」にてテニス部 (軟式) OB会を開催しました。師尾幹事の呼びかけにより、初参加の方2名を加え20期から23期まで12



名が集まり盛り上がりしました。参加者は以下の通りです。(敬称略。姓は在校時のもの) 後列左より佐藤 (21期)、村山 (23期)、杉本 (21期)、鳥海 (22期)、大串 (21期)、滝本 (22期) 師尾 (22期)、倉田 (21期)、前列左より高木 (23期)、山田 (23期)、大胡 (20期)、飯島 (23期)。次回は更に参加者が増えることを期待しております。
 (連絡先: ntoriumi@beige.ocn.ne.jp)
 (次回は2026年1月11日)

■ 柔道部OB会の新年会 鳥海 隆 (高23期)

本年2月1日(土)、5年ぶりに柔道部OB会の新年会を横浜中華街で開催しました。

母校の柔道部は廃部となり20余年経過しますが、高21期～48期18名の参加で大いに盛り上がり、改めて緑柔会 (柔道部OB会) の絆を感じました。

私もいつしか古い方から3番目となり、初対面の後輩の人たちとの会話を大いに楽しみました。

先日、母校を訪れ坂元校長先生に新体育館をご案内いただき、立派な柔剣道場を拝見しました。微力ながら「柔道部復活」に尽力したいの思いです。

コロナ禍で中断していた柔道啓蒙活動? も復活させたいと思います。



■ バドミントン部OB・OG会 加納 幹也 (高34期)

バドミントン部OB・OG会では、毎年秋に、現役生との交流戦を実施しています (令和2年から4年度はコロナ禍でできませんでしたが)。昨年も、11/24に旧体育館で最後となる交流戦を写真の通り盛大に開催しました。本年は、完成した新体育館で開催予定です。

日程は未定ですが決定次第OB・OG会のホームページに掲載予定ですのでご確認、またはホームページ管理者までメールでお尋ねください。

OB・OG会ホームページ:

<https://midoribadminton.web.fc2.com/>



■ 山岳部OB・OG会

小濱 千丈 (高31期)

山岳部OB・OG会「横浜三稜会」は、4月12日(土)に年次例会を開催しました。横浜中華街の龍城飯店に高13期から38期までの27名が集い、全国各地での登山をはじめ、山菜採りなど山に関わるこの一年の活発な活動が報告されました。また今回は高23期で2005年度より緑高の教師として山岳部の顧問をされていた片倉正一さんをご参加くださり、当時の部活動の様子などを伺えたほか、今後は三稜会の活動にもご協力いただけることになりました。当初の予定では翌13日(日)に箱根の金時山へのハイキングを予定していましたが、悪天候のため止む無く5月に延期となりました。現在、高校では山岳部は廃部となってしまい活動がありませんが、三稜会としては部の復活を目指そうという声も高まっています。



2025年 ～日々是好日～

掲載記事にご興味のある方、就職活動・お仕事・趣味など、投稿者とお話してみたい方は、お気軽にお問い合わせください。

greencommunity1923@gmail.com

(担当: 砂川、山崎: 46期)

※連絡先記載の投稿者には直接連絡可能です

■ 再会

八木 健吾 (高46期)

男子バレー部のグループチャットを作るぞ、と勢い込んで向かった昨年11月の卒業30周年の同窓会。冒頭から熱気が充満した会場で、数多くの懐かしい顔と会い、あっという間にあの頃に戻る。準備は幹事とは名ばかりで参加を募る呼びかけ程度、半年かけて準備してくれた仲間へ心底感謝しつつ、本番で何か出来ることをと即席カメラマンと化す。会場をぐるぐると回るが、後から見返すと自撮りが目立つ。大学では関西へ、仕事では家族とブラジルに駐在。常に未だ知らない先へ世界へと走り、沢山の素晴らしい人達とも出会えた。同窓会への参加の動機はそれぞれあって良い。自分にとっては人生これから! という時に、緑高の仲間と再会し、横浜で生まれ育った自分を取り戻す。その節目が同窓会だった。最近始めたノンアル習慣のお陰で、3次会まで計8時間を完走。無事にグループチャットも完成し、気分良く店を出ようと寒空対策のコートを着るともう一つコートが置き去りに。酔い潰れたかも知れない友人を心配しつつ、店の外に残るみんなに声を掛けてても持ち主が出てこない。これはいよいよ酔い潰れている人があるぞと立て続けに電話を掛けるが出ない、寒いぞ、いよいよやばいよと。散々心配した挙句に、エレベータを間違え遅れて出てきた双子の弟が、僕が上に掲げたコートを「あ、それ俺のだ」って、その場の一堂がみなズッコケる。同窓会無事終了、人生これから! と仲間と歩く足取りに力がこもる。



■ 子育てから教えてもらう事

三川 真生 (高63期)

私は今、二人の娘の子育てをしながら「ママたちの放課後」というコミュニティ運営をしています。設立のきっかけは、自分が母親になってみて、子育てに関する悩みや疑問を日常的にシェアできる場がほしいと思ったからです。

様々な学びやママたちとの関わりを通して、子育てで大切な心得の一つが「見守る」という事だと感じています。「見守る」って、簡単なようで一番根気があるものです。つつい先回りして口や手を出したくなりますが、子どもなりに挑戦して失敗も成功も体験することが一番成長に繋がるなど実感する日々です。

私自身も体験から学ぶ姿勢をこれからも続けていきたいなと思います!(旧姓: 北見)

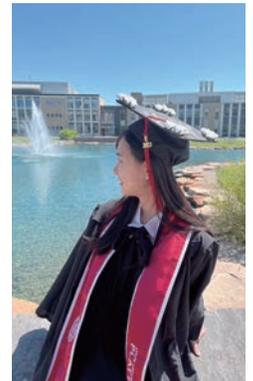


■ 自由な私をより自由にしてくれた緑高

西澤 花 (高71期)

高校時代は勉強そっちのけで楽器ばかりやっていた。大学はアメリカに行った。高校の頃、小山先生の世界史の授業中、ふと「アメリカの大学に入るって、できるんだろうか」と思いこっそりスマホで調べてみた。特に深い意味があったわけじゃない。ただ思いついたから行った。緑高には思いつきで生きていても許されるような心地よい自由さがあった。ただそれだけなんだ。

今は東京でエコノミストとして働きながら、週末は緑高吹のOB楽団で楽器を吹いている。思いつきで月収の何倍もする楽器を買ってしまった。(こやむ一授業聞いてなくてごめんね)



■ 緑高発、世界へのチャレンジ

青木 心 (高75期)

ロリアル主催の学生ビジネスコンテストに、緑高75期の3人で出場しました。高校時代は3人での関わりがありませんでしたが、同窓会をきっかけに集まり、2月から活動を開始。日本大会を経て、6月に行われる世界大会への出場が決まりました。3人とも通っている大学や学科が異なり、それぞれがアルバイトやインターン、授業で忙しい中で進めて来たのは、部活と勉強を両立し、さらに授業のほかにも探求活動を行うなど幅広くエネルギーを使う、共通の高校時代があるからだと思っています。やってみたい!という気持ちで踏み出した経験から、挑戦することの大切さを実感しました。高校生活でも、ぜひやりたいことに挑戦してみてください!

↓ 私たちが参加したコンテストのホームページです!

<https://brandstorm.loreal.com/en>





母校創立100周年事業の報告について



横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業実施概要 (中間報告) 横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会

創立100周年の年である令和5(2023)年から記念募金を始め、記念事業を実施してまいりました。

募金期間も2年以上となり多くの方から多くの募金を頂きました。皆様のご厚志に改めてお礼申し上げます。

- 令和5(2023)年の創立100周年を祝い記念事業を実施しました。
- 横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会を設置して事業を実施
- 記念事業実施期間
令和5年4月～令和7年5月(生徒会館改修等は引き続き実施)

◆100周年記念式典の開催

開催日：2025(令和7)年5月23日(金)
 会場：横浜緑ヶ丘高等学校新体育館
 出席者：全校生徒教職員(約900名)、
 後援三徳会会員・牧陵会会員(約300名)
 招待者：神奈川県副知事、神奈川県教育長、
 関係中学・高等学校校長及び高校同窓会長

◆記念誌の編集発行

2025(令和7)年5月1日発行
 制作物：記念誌(上巻及び下巻のセット、計877頁)及び
 記念誌収録のDVD
 制作数：1,000部

◆ぜんりよく音楽祭の開催

開催日：2024(令和6)年9月23日(月・振替休)
 会場：神奈川県立音楽堂
 来場者：695名/出演者：204名

◆在校生記念事業

100周年記念芸術鑑賞会
 記念品の配布

◆新聞企画ページによる広報(2025年事業)

神奈川新聞
 タウンニュース(中・西・南区版及び磯子・金沢区版)

◆事業経費

収入見込み	46,200千円
後援三徳会積立金より	16,000千円
記念募金	28,000千円
その他収入	2,200千円(音楽祭。記念誌頒布収入)
支出見込み	46,200千円
記念式典・記念誌	9,000千円(記念式典、記念誌作成・頒布)
記念イベント	5,000千円(ぜんりよく音楽祭、芸術鑑賞会ほか)
広報・生徒記念品	4,000千円(新聞企画広報、生徒記念品)
募金案内、事務局費	8,200千円(募金案内送付ほか予備費)
教育環境整備	20,000千円(冷風機、生徒会館改修)
※ 実施検討中の見込み額も含まれています。	

◆記念募金

(内訳)
 収入額見込み：2025年4月まで合計28,000千円
 一般分：14,000千円/
 まなびや基金分：14,000千円

100周年記念募金の入金状況 (期間：2023/6/1～2025/6/30)

2025/6/30迄 入金金額：2,341件 **28,609,262円**

卒業期	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
中学15	1	5,000	1	5,000	2	10,000
中学16	0	0	0	0	0	0
中学17	0	0	0	0	0	0
中学18	3	45,000	1	5,000	4	50,000
中学19	3	13,000	1	5,000	4	18,000
中学20	3	45,000	1	5,000	4	50,000
中学21	0	0	1	10,000	1	10,000
高校*1	7	43,000	0	0	7	43,000
高校*2	7	53,000	1	30,000	8	83,000
高校*3	8	62,000	2	35,000	10	97,000
高校*4	9	86,000	1	10,000	10	96,000
高校5	15	89,000	6	25,000	21	114,000
高校6	19	124,000	5	92,000	24	216,000
高校7	24	290,000	8	84,000	32	374,000
高校8	19	115,000	5	124,000	24	239,000
高校9	15	82,000	9	54,000	24	136,000
高校10	36	185,000	14	124,000	50	309,000
高校11	34	233,000	19	193,000	53	426,000
高校12	49	479,000	9	139,000	58	618,000
高校13	64	405,000	25	400,000	89	805,000
高校14	39	329,000	7	109,000	46	438,000
高校15	49	520,000	19	364,000	68	884,000
高校16	37	242,000	15	166,000	52	408,000
高校17	43	463,000	19	434,000	62	897,000
高校18	97	910,000	34	515,000	131	1,425,000
高校19	55	479,110	19	294,000	74	773,110
高校20	51	302,000	35	315,000	86	617,000
高校21	58	1,159,000	18	507,000	76	1,666,000
高校22	49	374,000	30	333,000	79	707,000
高校23	30	136,000	13	220,000	43	356,000
高校24	54	396,000	24	338,000	78	734,000
高校25	49	233,000	24	146,000	73	379,000
高校26	37	249,000	20	194,000	57	443,000
高校27	44	1,456,000	27	498,000	71	1,954,000
高校28	35	255,000	18	415,000	53	670,000
高校29	53	298,000	29	1,358,000	82	1,656,000
高校30	36	235,000	13	166,000	49	401,000
高校31	27	221,000	21	728,000	48	949,000
高校32	25	167,000	20	235,000	45	402,000
高校33	18	102,000	22	235,000	40	337,000
高校34	23	151,000	20	237,000	43	388,000
高校35	23	291,000	22	487,000	45	778,000
高校36	17	112,000	15	237,000	32	349,000
高校37	26	232,000	17	180,000	43	412,000
高校38	17	110,000	17	228,000	34	338,000
高校39	17	131,000	9	114,000	26	245,000
高校40	7	59,000	5	85,000	12	144,000
高校41	7	141,000	9	117,000	16	258,000
高校42	16	181,000	13	146,000	29	327,000
高校43	6	143,000	13	230,000	19	373,000
高校44	5	45,000	7	110,000	12	155,000
高校45	7	43,000	3	110,000	10	153,000
高校46	12	100,000	10	1,747,000	22	1,847,000
高校47	1	10,000	1	15,000	2	25,000
高校48	4	32,000	4	100,000	8	132,000
高校49	3	18,000	0	0	3	18,000
高校50	3	13,000	2	38,000	5	51,000
高校51	5	40,000	1	10,000	6	50,000
高校52	4	31,000	5	108,000	9	139,000
高校53	2	11,000	2	30,000	4	41,000
高校54	6	52,000	0	0	6	52,000
高校55	5	23,000	4	70,000	9	93,000
高校56	6	24,000	2	2,000	8	26,000
高校57	1	5,000	0	0	1	5,000
高校58	1	5,000	5	42,000	6	47,000
高校59	8	64,000	2	41,000	10	105,000
高校60	1	5,000	0	0	1	5,000
高校61	5	10,000	1	5,000	6	15,000
高校62	6	31,000	2	25,000	8	56,000
高校63	8	48,000	4	82,000	12	130,000
高校64	4	50,000	5	60,000	9	110,000
高校65	3	22,000	0	0	3	22,000
高校66	3	16,000	1	6,000	4	22,000
高校67	1	3,000	3	28,000	4	31,000
高校68	6	43,000	6	56,000	12	99,000
高校69	6	44,000	2	13,000	8	57,000
高校70	1	2,000	6	110,000	7	112,000
高校71	5	13,000	2	10,000	7	23,000
高校72	8	49,000	2	41,000	10	90,000
高校73	4	16,000	2	20,000	6	36,000
高校74	6	20,000	2	6,000	8	26,000
高校75	4	27,000	2	50,000	6	77,000
高校76	4	36,000	3	35,000	7	71,000
卒業生計	1,509	13,382,110	767	13,941,000	2,276	27,323,110
在校生	25	260,000	23	260,000	48	520,000
その他	16	611,152	1	155,000	17	766,152
合計	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
	1,550	14,253,262	791	14,356,000	2,341	28,609,262

会費・寄付金納入のお礼

牧陵会会長 直井 ユカリ

2024年度に下記の方々から会費納入、寄付金をいただきました。
厚くお礼申し上げますと共に、牧陵会活動の原資として有効に活用させていただきます。

2024年度 **2,093名**
総額 4,186,000円
(敬称略、期別、会員番号順)

2024年度 会費納入者一覧 (6月10日現在)

中18期	小林 愛子	深川 久美子	関根 定子	鷗沢 寿信	西村 弘行	川口 聡	多田 浩	柳 高好	杉本 健造	木田 友康	荻野 校	片桐 繁
水上 裕雄	神保 儀子	牧野 桂子	高橋 宏子	大久保 光三	服部 威夫	国弘 健治	田中 一郎	小斎 徳一	間部 晴夫	木村 徹	小野 一彦	片倉 正一
中19期	野村 尚美	望月 悦子	高橋 洋子	岡部 暢也	林 政義	小島 恒夫	田辺 誠治	斉藤 良信	鈴木 隆夫	金原 洋一	梶川 恵司	網谷 篤司
高7期	高7期	高11期	中島 晴代	加藤 勝也	平松 光生	小林 聖二	谷口 泰史	尾花 賢一	原 秀三	谷 宗利	加藤 洋明	小柴 幸夫
高8期	高8期	高13期	花原 洋子	河崎 隆雄	広田 馨	坂本 聖純	土屋 哲二	清水 規廣	榎原 栄男	小泉 常一	近藤 伸	小野 康也
高9期	高9期	高14期	北爪 啓進	君塚 寛邦	松本 裕志	高梨 昌次郎	戸田 友司	多田 勝	立川 知行	小崎 敏彰	加部 純夫	菅谷 光章
高10期	高10期	高15期	三橋 文恵	近藤 義昭	水谷 真一	常住 明夫	豊田 均	田中 博行	手塚 好久	小峯 康盟	川島 崇司	鈴木 繁司
高11期	高11期	高16期	村山 登代子	篠崎 義昭	森谷 保光	鶴岡 和彦	成田 和之	尾居 政治	出川 雄二	小山 眞作	蒲生 紀雄	竹前 博司
高12期	高12期	高17期	渡辺 公子	志村 良雄	渡辺 加津彦	名取 政一郎	野村 幸市	前島 治人	中井 雅人	佐々木 光昭	斎藤 雄二	鳥海 隆一
高13期	高13期	高18期	鈴木 隆夫	鈴木 隆夫	石川 あけみ	福山 英修	長谷川 幸男	牧野 雄児	橋本 好文	重田 栄一	安田 康之	萩原 俊一
高14期	高14期	高19期	辻 雅彦	辻 雅彦	石川 美那子	町田 俊一	林 博	村上 立司	平井 満	菅野 公一郎	高木 和彦	増田 誠治
高15期	高15期	高20期	井出 喜和子	井出 喜和子	兼田 富美子	松田 益義	堀内 三千雄	横山 謙二	堀内 利男	杉本 隆高	高橋 裕之	宮本 隆太郎
高16期	高16期	高21期	菊池 加津代	菊池 加津代	北川 純子	丸山 晋一	三船 洋	横山 隆昭	堀江 強	丹波 義彰	滝本 幸夫	村田 幸男
高17期	高17期	高22期	北川 純子	北川 純子	柳島 三樹	柳島 三樹	村松 治	松本 謙吾	松沢 俊朗	鳥居 敏治	武田 久	村山 盤
高18期	高18期	高23期	柳島 三樹	柳島 三樹	山口 公児	松村 弥栄子	森田 茂	安野 仁	大石 和江	萩原 能和	中山 敬幸	金子 里美
高19期	高19期	高24期	山崎 勝之	山崎 勝之	万木 淳一	矢澤 操	柳嶋 秀夫	山崎 秀夫	菅野 裕美	藤井 照芳	播磨 俊之	藤井 喜代江
高20期	高20期	高25期	内野 豫	内野 豫	速藤 行季子	大塚 公子	何 文能	相澤 宏一	輪湖 一男	高島 ひろみ	三上 功	横川 三枝子
高21期	高21期	高26期	大塚 公子	大塚 公子	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高22期	高22期	高27期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高23期	高23期	高28期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高24期	高24期	高29期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高25期	高25期	高30期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高26期	高26期	高31期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高27期	高27期	高32期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高28期	高28期	高33期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高29期	高29期	高34期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高30期	高30期	高35期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高31期	高31期	高36期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高32期	高32期	高37期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高33期	高33期	高38期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高34期	高34期	高39期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高35期	高35期	高40期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高36期	高36期	高41期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高37期	高37期	高42期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高38期	高38期	高43期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高39期	高39期	高44期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高40期	高40期	高45期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高41期	高41期	高46期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高42期	高42期	高47期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高43期	高43期	高48期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高44期	高44期	高49期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高45期	高45期	高50期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高46期	高46期	高51期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高47期	高47期	高52期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高48期	高48期	高53期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高49期	高49期	高54期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高50期	高50期	高55期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高51期	高51期	高56期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高52期	高52期	高57期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高53期	高53期	高58期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高54期	高54期	高59期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高55期	高55期	高60期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高56期	高56期	高61期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高57期	高57期	高62期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高58期	高58期	高63期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高59期	高59期	高64期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高60期	高60期	高65期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高61期	高61期	高66期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高62期	高62期	高67期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高63期	高63期	高68期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高64期	高64期	高69期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高65期	高65期	高70期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高66期	高66期	高71期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高67期	高67期	高72期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高68期	高68期	高73期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高69期	高69期	高74期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高70期	高70期	高75期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高71期	高71期	高76期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高72期	高72期	高77期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高73期	高73期	高78期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高74期	高74期	高79期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高75期	高75期	高80期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高76期	高76期	高81期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高77期	高77期	高82期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高78期	高78期	高83期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高79期	高79期	高84期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高80期	高80期	高85期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高81期	高81期	高86期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高82期	高82期	高87期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高83期	高83期	高88期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高84期	高84期	高89期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高85期	高85期	高90期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高86期	高86期	高91期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高87期	高87期	高92期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高88期	高88期	高93期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高89期	高89期	高94期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高90期	高90期	高95期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高91期	高91期	高96期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高92期	高92期	高97期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高93期	高93期	高98期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高94期	高94期	高99期	大志津江	大志津江	加賀美 泰雄	白井 初枝	渡辺 正子	渡辺 正子	渡辺 正子	阿部 光正	松本 繁男	藤本 修一
高95期	高95期	高100期	大志津江	大志津江	加賀美							

2024年度 寄付金納入者一覽 2024年度 1,000名 総額 2,880,346円 (敬称略、期別、会員番号順)

Table listing 1,000 donors with columns for name, address, and contribution period. The table is organized into columns and rows, with names in kanji and addresses in hiragana. Contribution periods are indicated by numbers in boxes (e.g., 高18期).

事務局より

● 牧陵新聞のメール配信 登録開始について 総務・会員部会

牧陵会では、皆様への情報提供・共有するツールとして、紙媒体の「新聞」発行を中心に広報を行い電子メディアの「Web・ホームページ」「Facebook」等も併せて活動をしてまいりました。

総会でご報告のとおり近年の諸経費と郵送料の増加の影響を受け、紙媒体から電子メディアの運用に軸足を移していくこととなりました。

牧陵会は歴史ある同窓会であるため幅広い年代の会員の皆様がおられます。きめ細かい情報提供のあり方を模索しております。

新聞の配布について

新聞の紙面はホームページに掲載し、インターネットの環境から閲覧可能となっています。

賛同いただける方への新聞（紙媒体）の配送を停止し、メール配信でURLリンクを知らせる方法に変更します。

賛同いただける方にメールアドレスを登録いただくページを設置しました。すでにメールアドレスをお届けいただいている方も、配送停止の確認とメールの本人確認のため、住所、氏名等の入力をお願いします。



https://bokuryoukai.com/request_delivery/

電子メディア (Instagram) による発信について

若手の会員を中心に「SNS」を使った情報発信について提案があり、今回手始めに「Instagram」を用いた情報発信を試行することにいたしました。是非皆様にもフォロワーになっていただき、同期友人方々と情報シェアいただけたらと思います。

他にも様々なメディアにつきましても、各世代への情報発信・共有の効果的な活用を検討してまいります。また、新聞の発行頻度や形式も改善を図ってまいります。皆様の積極的なご参加・ご支援をよろしくお願いたします。

アクセス情報		
ホームページ	Facebook	Instagram

Project 2500 プロジェクト2500 横浜緑ヶ丘高校の未来のために

牧陵会会費納入の現状について (2025年3月現在)

会員の皆様のご協力により、対予算比83.6%の納入をいただきました。納入人数は2,093名で前年度から185名の減少、金額は370,000円の減少となっており、寄付金も412,654円減少しております。

100周年記念募金の影響もあり、プロジェクト2500の目標人数2,500名に達成できませんでした。

同窓会活動の原資である会費納入に、皆様のご理解、ご協力お願いいたします。

■会費納入はホームページから「PayPal、クレジットカード支払い」や「銀行振込」も可能となっていますので、2025年度も皆様の更なるご協力を切にお願い致します。



▶会費・寄付金のお支払い方法

HP → 会費・寄付金 → キャッシュレス決済



2025年度 メモリアル同期会 支援金対象期のご案内 会員部会

◆同期会開催を計画しましょう (活動支援金を支給)

牧陵会の基本は親睦にあり、会員同士のつながりは同期会でのつながりが基本となります。会員の増加と会員情報の整備を目的として、牧陵会では同期会開催について支援金を支給しています。

●支援金：①同期会：1万円、②メモリアル同期会：5万円、③敬老感謝同期会：2万円です。

▶卒業変換：HP→住所変更・お問い合わせ→

卒業期 (卒業年) 早見表を参照してください。



◆牧陵会の同期会開催に対する活動支援金の繰越認容について

3年間のコロナ禍で開催できなかったメモリアル同期会においても、繰越して支援できることとなっています。

▶詳細お問合せ：HP→住所変更・お問い合わせ。



①同期会 (1万円支給)

②メモリアル同期会 支援対象期 (5万円支給)

2025年1月現在

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
卒業後2年 成人式メモリアル	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒	78期 R8年卒	79期 R9年卒	80期 R10年卒
卒業後5年 メモリアル	72期 R2年卒	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒
卒業後10年 メモリアル	67期 H27年卒	68期 H28年卒	69期 H29年卒	70期 H30年卒	71期 H31年卒	72期 R2年卒
卒業後20年 メモリアル	57期 H17年卒	58期 H18年卒	59期 H19年卒	60期 H20年卒	61期 H21年卒	62期 H22年卒
卒業後30年 メモリアル	47期 H7年卒	48期 H8年卒	49期 H9年卒	50期 H10年卒	51期 H11年卒	52期 H12年卒
卒業後41年 選歴記念メモリアル	36期 S59年卒	37期 S60年卒	38期 S61年卒	39期 S62年卒	40期 S63年卒	41期 H1年卒

③敬老感謝同期会 支援対象期 (2万円支給)

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
古希 (70歳) 卒業後52年	26期 S49年卒	27期 S50年卒	28期 S51年卒	29期 S52年卒	30期 S53年卒	31期 S54年卒
喜寿 (77歳) 卒業後59年	19期 S42年卒	20期 S43年卒	21期 S44年卒	22期 S45年卒	23期 S46年卒	24期 S47年卒
米寿 (88歳) 卒業後70年	8期 S31年卒	9期 S32年卒	10期 S33年卒	11期 S34年卒	12期 S35年卒	13期 S36年卒

住所変更お届けのお願い

2024年8月の牧陵新聞配布に約263通 (配布総数約15,279通) の宛先不明による返送が発生しております。皆様からの住所変更のお届けが多くなり返送数は減少しておりますが、転勤などで住所が変わる30代世代が宛先不明になることが多いようです。新聞は皆様と結ぶ大きなツールです。住所の変更は住居表示変更も含めお知らせいただければ幸いです。

▶住所変更お届け

・HP → 住所変更・お問い合わせ

または、FAXにて牧陵会事務所へ連絡をお願いします。

事務所の開所日は、「火、木曜日」の10～16時」と限られておりますので、ご協力をお願いします。



牧陵会事務所の場所・連絡先

関内駅北口から海側 (東) に徒歩200m「銀だこ」のビルです。

TEL/FAX: 0 4 5 - 6 6 4 - 9 0 2 0

メー ル: HP→住所変更・お問い合わせ

H P: <https://bokuryoukai.com>

住 所: 〒231-0014 横浜市中区常盤町3丁目24 サンビル6階C号

事務局の業務: 火、木曜日 10:00から16:00とさせていただきます。

